

当月のS&P MLP 指数の動き

8月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+0.7%と4か月連続での上昇となりました。

月初に発表された軟調な米雇用統計を受け、米景気後退懸念が強まる中、原油価格や米国株式が下落したことなどから、MLPも下落しました。しかしながら、その後、米景気後退懸念は行き過ぎとの見方が広がったことから、米国株式とともにMLPも反発し、月初の下落分を取り戻す展開となりました。

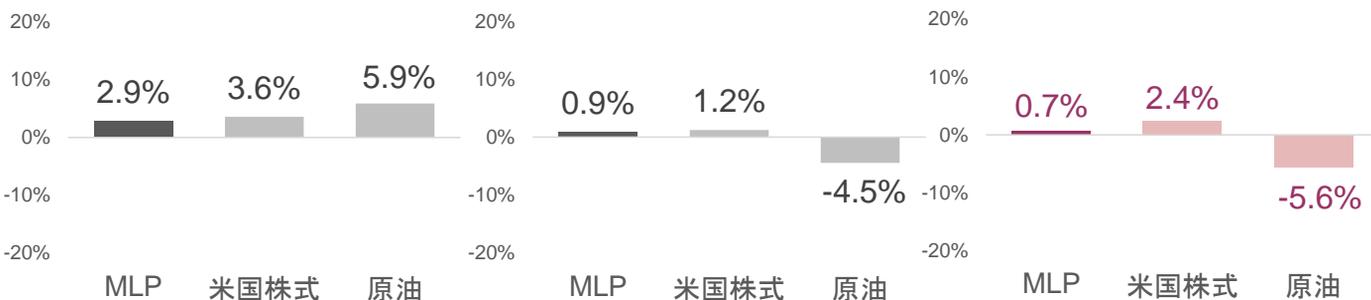
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

2024年6月

2024年7月

2024年8月



MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

主要指標の動き

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2024/8/31	2024/7/31	2024/5/31	2023/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	8,793.14	8,735.02	8,410.37	7,384.81	0.7%	4.6%	19.1%
プライスリターン	1,684.87	1,695.51	1,643.14	1,500.43	-0.6%	2.5%	12.3%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	12,344.43	12,052.09	11,494.70	10,327.83	2.4%	7.4%	19.5%
プライスリターン	5,648.40	5,522.30	5,277.51	4,769.83	2.3%	7.0%	18.4%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,580.91	1,608.23	1,595.55	1,419.77	-1.7%	-0.9%	11.3%
プライスリターン	695.86	712.42	708.04	640.05	-2.3%	-1.7%	8.7%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,900.69	1,786.47	1,633.37	1,686.38	6.4%	16.4%	12.7%
プライスリターン	372.97	351.16	323.84	338.75	6.2%	15.2%	10.1%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,690.41	1,663.94	1,616.32	1,590.32	1.6%	4.6%	6.3%
プライスリターン	69.52	68.80	67.56	68.29	1.0%	2.9%	1.8%
米国10年国債利回り	3.90%	4.03%	4.50%	3.88%	-0.13	-0.60	0.02
原油(WTI) 米ドル/バレル当たり	73.55	77.91	76.99	71.65	-5.6%	-4.5%	2.7%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	2.13	2.04	2.59	2.51	4.5%	-17.8%	-15.4%
米ドル(対円)	146.17	149.98	157.31	141.04	-2.5%	-7.1%	3.6%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 2日に米国で発表された7月の非農業部門雇用者数は前月比+11.4万人と、予想を下回り、前月から伸びが鈍化した。また、失業率は予想を上回り、2021年10月以来の高い水準となったほか、平均時給は予想以上に鈍化し、2021年5月以来の低い伸びとなった。利下げ観測が強まり、米国債利回りが低下し、一時、2年債で3.84%台、10年債で3.78%台と、それぞれ、2023年5月、同年12月以来の低い水準となった。米国株式相場は全面安となり、原油先物も続落した。
- 12日、米ホワイトハウスの大統領補佐官が、イランや親イラン組織などによるイスラエルへの攻撃が数日中に行なわれる可能性が高まっていると述べた。中東での地政学リスクの高まりを受け、原油先物が買われ、ニューヨークでは1バレル=80米ドル台で引けた。
- 14日に米国で発表された7月の消費者物価指数が、全体で前年同月比+2.9%、コアで+3.2%と、それぞれ、2021年3月、同年4月以来の低い水準となった。米国債利回りが長期債を中心に低下する中、米国株式相場は続伸した。
- 23日、米FRB(連邦準備制度理事会)のパウエル議長はジャクソンホールでの講演で、インフレ率が2%の目標への持続的な道筋を辿っているという確信を深めたとして、金融政策を調整する時が来たとして述べ、9月の利下げの可能性を示唆した。パウエル議長の発言を受け、米国債利回りが低下した一方、米国株式相場は上昇した。
- 30日、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスが計画通り10月から原油供給量を引き上げる方針と報じられた。これを受け、原油先物が急落し、WTIが1バレル=73米ドル台となった。

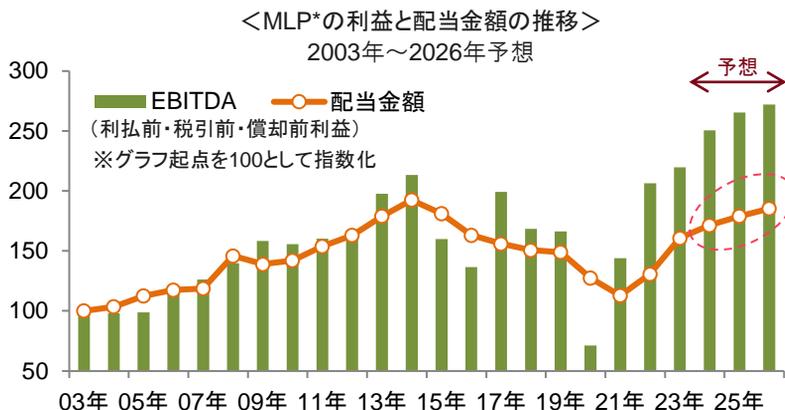
今後の注目点

9月17・18日に米国でFOMC(連邦公開市場委員会)が開催される。利下げがほぼ確実視される中、利下げ幅がどの程度になるかが注目される。

MLPの配当金額見通し

2024年4-6月期の決算では、前年同期比で増配とするMLPが半数*を上回りました。なお、市場予想によると、MLPの配当金額は2024年以降も、増加が続く見通しです。

* S&P MLP 指数ベース



信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 予想は2024年9月2日時点のコンセンサス予想

※ 上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

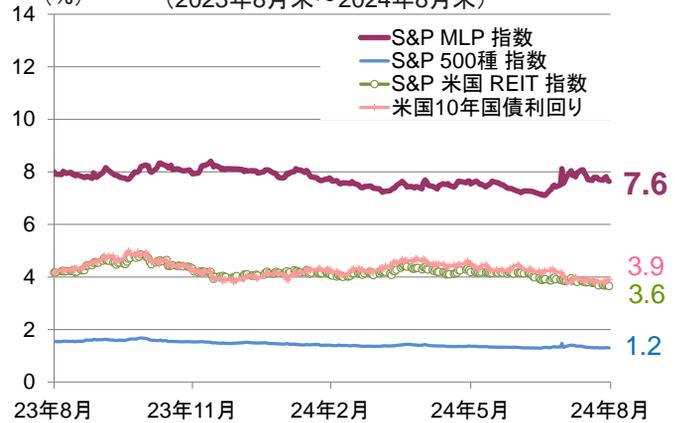
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2023年8月末～2024年8月末)



■過去1年の各資産の利回り

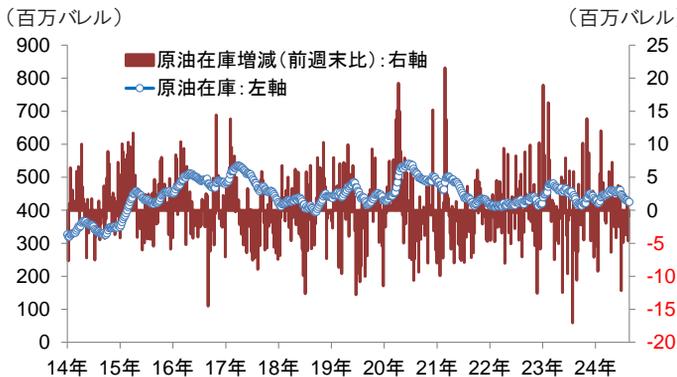
(2023年8月末～2024年8月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

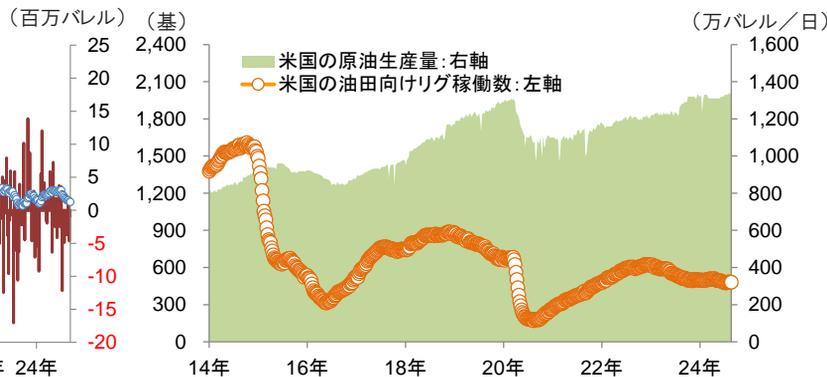
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2024年8月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2024年8月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2024年8月末)



*米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。